運動会余話

全校４色リレーの時、Ｋくんにバトンがわたりました。

渡したのはNさん。

Ｎさんは、バトンを渡した後も、トラックの内側を「がんばれKちゃん」と声をかけながら、次の走者にバトンが渡るまで走り続けました。

これが子どもたちの考えた「作戦」でした。

特別支援の必要な子たちが、負担や重荷としてとらえられず、ともに参加し、ともに育つ、すてきな場面を見せてもらったような気がします。

こうしたことは、特別支援の必要な子どもがいたから、実現したのだろうと思います。

もし、そうでなかったら、Ｎさんもそんなことに気づきもしなかっただろうし、することもなかっただろうと思うのです。

特別支援の必要な子どもがいてくれたおかげで、子どもたちのこころが育ったのだろうと思います。

無論、これは特学の担任をはじめ、交流学級の担任の働きかけがあったからであることは言うまでもないことです。

普段からの働きかけがあったからこそ、こうしたことが肝心な場面で現れてくるのでしょう。

※　　※

普段からの働きかけといえば、ある先生がこんなことを打ち上げの時に話してくれました。

「ようこそ１年生」の時が終わった後、私は、お節介にも（すでに指導されていた先生もいたのかもしれない）「特学の子どもたちが発表したときに、からかったように笑った子どもたちがいました。指導していただけるようにお願いします」と朝の打ち合わせでお願いしました。

その先生は、早速教室で子どもたちに話してくださったというのです。

そうしたら、今回の運動会で、特学のＴくんが総練習のリレーでコースをショートカットをしたときに、「先生、Ｔくん、まっすぐ走ってたよね。でも、いいよね」と話したそうなんです。

私は、私がお願いしたことをきちんと指導してくれたから、子どもが育ったんですよ、なんて毛頭言うつもりはないのです。

そんな一度の指導で子どもたちが変われるなら、教育は楽なものです。

しかし、そうではなくて、その先生が普段から子どもたちにいろいろな場面で指導され、そして先生自身の接し方もまた「一生懸命しているけれど、うまくできない子ども」へ温かいのだと思います。

子どもたちは、教師のことばを観ています。

聞いているのではないのです。

ことばを発したその教師の姿を観ているのだと思います。

発したことばのその通りに先生は生きているのか、と。

運動会後のケアを

まず第一に、この運動会でどの子がどのように成長したのかを、直接話すなり、学級通信で取り上げていただけたらと思います。特に、競技等で活躍できなかった子どもたちへのフォローが大事です。どんな、小さなことでも取り上げて、「競技では残念だったけど君はこんなところでがんばっていたね」と伝えてあげるのです。

私は、１，２年生の「名探偵こんなん」のときに、ゴールのところから毎回全力疾走で、ラケットを持ってきてくれた４年生たちの姿がとても印象的でした。競技での活躍できない子どもは、そんな様子を取り上げほめてあげていただけると良いかと思います。

次に、行事作文は短時間で仕上げ、できるだけ通常の学習指導に切り替えるということです。

このことの重要性は、私が今更言うまでもありませんね。

第３に。

子どもたちに感謝の気持ちを持たせるような働きかけをお願いします。

さて、運動会が終わったね。
そこでちょっと考えてもらいたいんだけども……。
運動会のときに、朝早くからお弁当の用意をしてくれたのはだれだったかな？
きれいな万国旗がつってあったけれど、あれをしてくれたのはだれだったかな？
グラウンドに線を引いていたのは？
みんなの足が汚れないように、テントのシートをぞうきんがけしてくれたのは？
みんなのＴシャツに名札を縫ってくれたのは？
……
みんな、ありがとうって言ったかな？まだの人、まだ遅くないよ。いえたらいいな。
世の中ね、当たり前なんてことはないよね。
誰かがどこかでみんなのためにしてくれているんだよね。

そういえば、担任時代こんな話をしていました。

こういうことは、担任が話さなければなかなか気がつきませんからね。